

いしかり
市民カレッジ
(ICC)は

市民が企画する オリジナルの講座が自慢です

いしかり市民カレッジの最大の特長は、市の予算に関係なく、自分たちの実施したい講座をカレッジ生からの年会費や受講料、企業からの広告費で運営していることにあります。ここでは、講座を開くまでの流れをイラストと、いしかり市民カレッジ(ICC)運営委員会のスタッフの声でご紹介します。



▲昨年5/13・20、6/3に開催された「菅井貴子さんの気象学講座」

▶ 講座の企画に情報収集は欠かせません。日ごろ見ているテレビや新聞の見方も自然に変わり、仲間との会話も重要なヒントに。



講座の作り方

講座」にみる企画→PR→運営の流れ一



▲講師の菅井貴子さんと打ち合わせ。ICCの趣旨を説明した上で、講座の内容や資料の準備など開催に向け綿密にやり取り。



◀ 7月から8月に講座案を提出。それをみんなで9月から12月にかけて、検討していきます。いつごろ、何回、どこで開催するか、

講師は誰にお願いするかなど、具体的な調整もこの時期に進めていきます。

ICCは、道民カレッジとも連携しています。そのため、受講者の中には石狩市以外の方もたくさんいらっしゃいます。リピーターの方も多く、同じバスに乗り合わせて顔見知りになって、今ではすっかりお友達になったという話もあって、これには私たちもびっくり。違うまち同士でお友達になるってなかなかないでしょう？ すてきなことですよね。



ICCスタッフ
渡部 恵美子さん

「学びの記録」手帳



カレッジ生には「学びの記録」手帳をお渡しします。ICCが主催する講座と連携講座を受講するとスタンプが1個押印されます。年2回、貯まったスタンプの数に応じて(30個〜)修了証が学長である市長から手渡され、達成感もひとしおです!



所定のスタンプ数が貯まったら「学びの記録」手帳に添付の「いしかり市民カレッジ修了証申請書」を事務局に提出しましょう!



「まちの先生企画講座」では、市民が仕事や趣味などで得た知識や経験、技術などを講師になって伝授します。講師に興味があるという方もお待ちしております！

うちのカレッジは、とても楽しくて元気が出て、友達も増えて、いいことがいっぱいなので、ぜひカレッジ生になってほしいです。そして私たちのようにスタッフにもなって、できれば一緒にやってほしい！ みんないろんな経歴を持つ人たちが集まっていて、わきあいあいとやっていますよ。



ICCスタッフ
高橋 美恵子さん

ここは年齢も社会的地位も関係ない、生涯教育の場です。いろんな方に向けたさまざまなタイトルの講座をつくっていますから、何がしか皆さんに興味を持ってもらえる講座がきっとあると思います。スタッフも大歓迎で、腰が痛いとか、肩が痛いとかうちの仲間たちも高齢化が進んでいますんで(笑)。ぜひ若い方にも加わっていただきたいですね。



ICCスタッフ
勝木 敏一さん

受講者の声

「楽しいお話、予報の裏話など面白く、予報士のお話もきちんと聞こうと思いました。単なる予報と思っていましたが奥が深い!!」



6

◀講座が終わったら、ホームページでも紹介。参加できなかった方にも内容が伝わるよう写真と記事で丁寧に振り返り、受講者の声も披露しつつ、次の講座へとつなげます。

<http://www.ishikari-c-college.com/>



—「菅井貴子さんの気象学」

▶開催当日は、机を並べたり、プロジェクターを準備したり、カレッジ生から受講料を受け取るなど裏方作業に徹します。



5



4



▲宣伝も大切です。チラシやポスターを作り市内公共施設に貼って歩くほか、講座を案内する「あい風通信～お知らせ版～」の発行、マスコミへの売り込みも頑張ります。

スタッフ
大募集!

ICCのスタッフは、講座を企画・運営する〈企画・事業グループ〉と、外部の講座(連携講座)の選定や講座のPR、情報紙の編集などを行う〈総務・広報グループ〉に分かれて活動しています。月1回の会議には、いつでも体験参加できますので、ぜひお気軽に、事務局☎74・2249へご連絡ください。



講座は受けたことがあっても、自分で講座をつくるというのは、ICCで初めて経験しました。講座をつくるってすごく難しいと思うかもしれませんが、実際、大学の先生などに当たってみると、思いのほか気軽に引き受けてもらえて、私の場合、アイヌ関連の講座が多いんですが、専門家の方からいろいろお話も伺えて、かなり得した気分になります。



ICCスタッフ
土井 勝典さん